

民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

大企業へ巨額の税金 半導体支援法成立 (3面)

高校生の願いと響き合う民青同盟 第45回全国大会の発言から(6、7面)

新自由主義を終わらせ、命と暮らしを大切に政治へ(10、11面)

学生の命と暮らしを守ってきた

コロナ危機の下、世界でも日本でも新自由主義への問い直しが強まっています。民青同盟は第45回大会期を「日本の政治を新自由主義から転換させる決定的な一年に」と位置づけました。コロナ危機の下で民青同盟が行った学生への食料支援活動は、47都道府県で行われ、のべ10万人以上が利用しました。食料支援活動はどのような取り組みだったのか―徳島県委員長の大西芹那さん、愛知県委員長の古川大暎さんと、経験と思いを交流しました。司会 は中央副委員長の酒巻眞世さんで(栗山さつき記者)

酒巻 民青の食料支援活動「た」といった深刻な実態について、学生の実態を交えながら振り返りたいと思います。古川 愛知県内では食料支援を今までに25カ所、計120回行い、述べ5500人が利用しました。初めて食料支援を行ったときは数人しか来ませんでした。夏休み明けくらいに大学近くでやると50人くらい来ました。本当に求められている活動だと感じました。実態調査では「コロナの影響で仕事がなくなり、先が見えない」「大学の講義が全てオンライン授業になり、ネット環境を整えないといけないので引越したけれど9万円もかかっ

2022新春座談会



▲徳島の大西県委員長(左)、愛知の古川県委員長(中央)、酒巻中央副委員長(右)

新自由主義から転換する決定的な一年に

意識しました。大西 食料支援を提案された時は「誰か来るの？」と思っていました。しかし、実際にとりくんでみると、60人、70人が利用して、3カ月家賃を滞納しているほどの学生が来ました。実態調査では「1日1食で済ませたい」「4、5月で家が払えなくて、2週間もやして豆腐で乗り切りました」と言う学生がいて、衝撃を受けました。参加して追いかけていくことができた。他の大学の近くでも食料支援を始めた。学生の給付金など、「もどかしく感じる」という声もあつたので、活用できる支援制度の相談のつた

食料支援を通じて 連帯築いた



酒巻 学生の中で食料支援のボランティアが広がって、その中で民青の仲間が増えてきたという経験や、民青が展望を届けられていると実感した経験があったら聞かせてください。古川 「みんなを支えるために何かをしたい」というのが一番根底にあると思う。先週の食料支援活動の時は「カンパしたい」という学生がいました。それから、食料を受け取ったら、同僚の先輩から誘われて、「私も手伝いたい」と始めて「民青の話になります」と話

実態届け 政治動かした



酒巻 12月の全国大会で、京都で大学生だけが支えた。要請行動をしてみても、実態を行政に届けることが求められていると実感しました。古川 実態調査を行う中で、初めて要請に行ったときは、県として青年や学生を支援する部署がありませんでした。しかし、昨年2月議員から「国会では高齢者」と子どもをどうするか議論してきたけど、大学生のこ

(2面につづく)